

ながよ 遺跡マップ



1 堂崎遺跡
2万年~3万年前頃の遺跡で、町内で最古の遺物(石器群)が出土する。このころは最終氷河期で、大村湾は盆地で、丘陵にあるこの遺跡は狩猟基地になっていた。今のところ長与町内で最初にヒトが住み始めたのはここ堂崎であったと考えられる。

ナイフ形石器

18 寺屋敷跡五輪塔群(県指定史跡)
石村は西彼半島産のものもある。町内最古の文字で「明徳・永享・明応」の年号や、地名が刻まれ、これらは町内最古の文字である。かつての当地の横主「長与」一族に由来があるのではないかと推定される。

11 浜の城(睡飲城)跡
天正14(1586)年、長与統一が「大村純忠」にそむき、この城に立てこもり、射手が差し向けられて落城する。その故事により「睡飲城」と呼ばれるようになった。

12 長与皿山窯跡
「階段状盛り窯」で、焼き物を焼く部屋(焼成室)が、山肌の斜面を使って階段状に作られている。北から南にかけて、全長約115m、およそ25室で構成。長崎県南地方では最大規模。寛文7(1667)年築窯、安政6(1859)年まで3期に渡り、断続的に長与焼が焼かれた。

16 東高田城跡
天満神社すぐ後の平地が主郭で、その東に丘陵を切断するように、ほぼ南北に、岩盤を深くえぐって伸びる2列の堀切(空堀)が残っている。高田川を挟んでわずか200m北側にある西高田城と対になって、防御機能を果たしていたと考えられる。

21 中尾城跡(町指定史跡)
本丸、二の丸、三の丸がV字上に配置されており、二の丸の北側に、長さ50mを超える大規模な堀造の土塁が残る。町内屈指の戦国期の山城。現在は中尾城公園となっている。

25 洗切陣屋跡
江戸時代の「長崎往還」という官道の中継地。長崎参府の時は、ここに藩士が集結し陣形を整える基地にもなった。

凡例

○ 遺跡ポイント (番号は裏面の一覧表と同じ)	トイレ
E34 高速道路番号	バリアフリートイレ
196 国道番号	温泉
33 県道番号	学校
P 駐車場	郵便局

お問合せ 長与町教育委員会生涯学習課
TEL095-883-1111
〒851-2185 長崎県西彼半島長与郷659番地1

